

## 滋賀県内企業動向調査

### ～19年4-6月期の実績見込みと19年7-9月期の見通し～

# 製造業の景況感は2四半期連続でマイナス

㈱滋賀銀行のシンクタンクである ㈱しがぎん経済文化センター（大津市、取締役社長 北川 正義）では、県内企業の景況感を調査するために「滋賀県内企業動向調査」を四半期ごとに実施しています。このほど2019年4-6月期分の調査結果をまとめましたので、公表いたします。

#### 【調査の概要】

- ・調査名：滋賀県内企業動向調査（2019年4-6月期）
- ・調査時期：2019年5月9日～27日
- ・調査方法：郵送による配布、回収
- ・調査対象先：滋賀県内に本社を置く企業および県外からの進出企業 911社
- ・回答数：296社（有効回答率32%）うち製造業135社、非製造業161社
- ・分析手法：DI（ディフュージョン・インデックス）  
＝「かなり良い」と「やや良い」の回答割合から、  
「かなり悪い」と「やや悪い」の回答割合を引いた指数を採用

#### 【調査結果の要旨】

##### 1. 現在の業況判断（P2～4）

- ・今回調査（19年4-6月期）での自社の業況判断DIは0で、前回（19年1-3月期）の+1から1ポイント低下し、もちあいとなった。
- ・製造業は、前回の-11から2ポイント低下し-13となり、2四半期連続でマイナス水準となった。化学はマイナス水準からプラス水準に回復、金属製品はマイナス水準からもちあいに回復するも、一般機械はプラス水準からもちあいに低下した。繊維、木材・木製品、食品、精密機械などは低迷が続いている。
- ・非製造業は、前回の+12から1ポイント低下し+11となり、2四半期連続でプラス水準となった。建設、卸売はプラス水準を維持、不動産はマイナス水準からプラス水準に回復、その他の非製造業はマイナス水準からもちあいに回復した。一方、小売はもちあいからマイナス水準に低下、運輸・通信はプラス水準からもちあいに低下した。
- ・3カ月後（19年7-9月期）は、製造業が3ポイント低下の-16に、非製造業は10ポイント低下の+1、全体では7ポイント低下の-7と、マイナス水準に低下する見通しとなった。

##### 2. その他の判断項目（P4～7）

- ・売上DI（前回：-1→今回：-4）は前回から3ポイント低下し、2四半期連続でマイナス水準（「減少」超過）となった。
- ・経常利益DI（-8→-8）は、前回と同水準。製造業（-20→-17）はやや改善も、非製造業（+1→-1）はマイナス水準に低下した。
- ・製・商品の在庫DI（+10→+7）は3ポイント低下。
- ・販売価格DI（+6→+5）は1ポイント低下。
- ・仕入価格DI（+34→+30）は4ポイント低下。
- ・生産・営業用設備DI（-7→-6）は1ポイント上昇も、12四半期連続でマイナス水準。
- ・雇用人員DI（-37→-32）は、前回から5ポイント上昇も、28四半期（7年）連続のマイナス水準。

##### 3. 設備投資の実施状況（P8・9）

- ・設備投資を実施した（する）企業の割合は47%で、前回（50%）から3ポイント低下。
- ・主な内容（複数回答）は、「生産・営業用設備の更新」（40%）が最多。次いで「車両の購入」（31%）、「OA機器の購入」（30%）、「生産・営業用設備の新規導入」（26%）と続いた。

【お問い合わせ先】 ㈱しがぎん経済文化センター 産業・市場調査部 北村（TEL：077-523-2245）

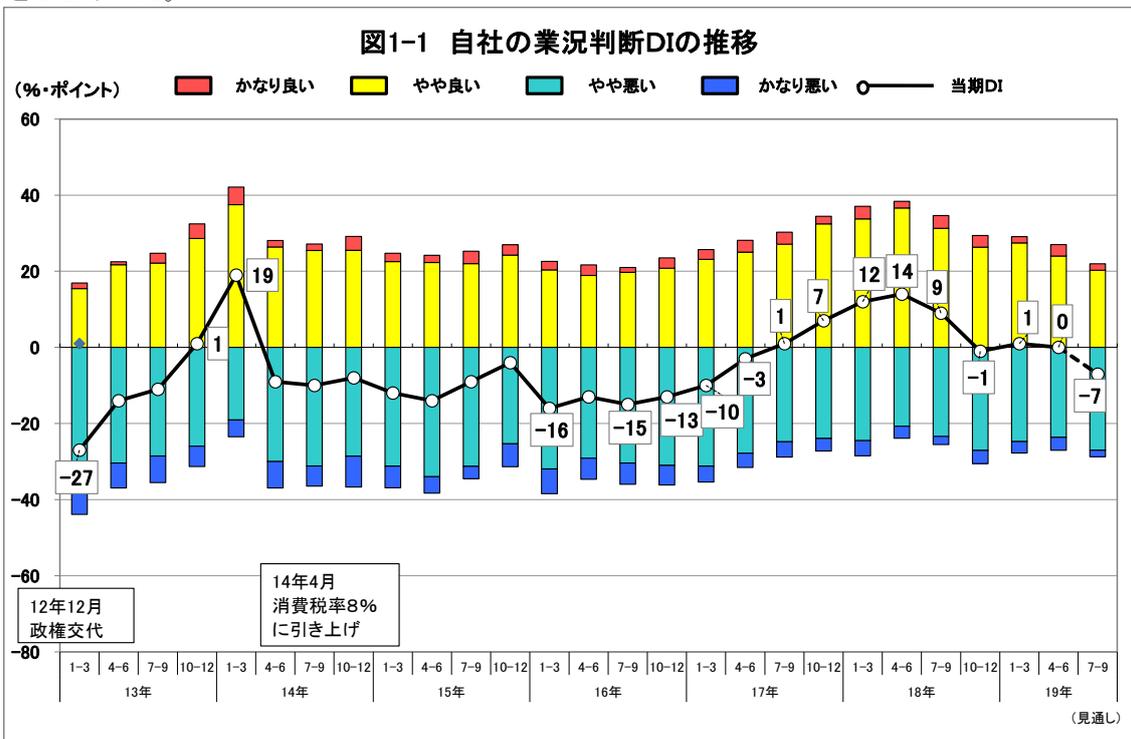
## 1. 自社の業況判断

### (1) 自社の業況判断DI…製造業は2四半期連続のマイナス水準 非製造業はプラス水準

#### 1. 全体の動向 (図1-1)

今回の調査(19年4-6月期)での自社の業況判断DIは前回(19年1-3月期)の+1から1ポイント低下の0となり、もちあいになった。

3カ月後(19年7-9月期)は、全体で7ポイント低下の-7と再びマイナス水準になる見通しとなった。



#### 2. 業種別の動向 (図1-2、表1)

業種別にみると、製造業は、前回の-11から2ポイント低下の-13となり、2四半期連続でマイナス水準となった。化学(-17→+25)はマイナス水準からプラス水準に回復、金属製品(-5→0)はマイナス水準からもちあいに回復、電気機械(-18→-9)はマイナス幅が縮小した。精密機械(-25→-60)、その他の製造業(-4→-12)はマイナス幅が拡大した。繊維(-46→-37)、木材・木製品(-63→-25)、食料品(-29→-23)はマイナス幅が縮小も低迷が続いている。

3カ月後の製造業全体は、3ポイント低下の-16とマイナス幅が拡大する見通しである。

非製造業は、前回の+12から1ポイント低下するも+11と、2四半期連続でプラス水準になった。建設(+30→+25)、卸売(+17→+7)はプラス水準を維持、不動産(-8→+27)はマイナス水準からプラス水準に上昇、サービス(0→0)はもちあいを維持し、その他の非製造業(-25→0)はマイナス水準からもちあいに回復した。一方、小売(0→-5)はもちあいからマイナス水準に低下した。

3カ月後の非製造業全体は、10ポイント低下の+1と、大幅に低下するもののプラス水準を維持する見通しである。

今年のゴールデンウィーク10連休は非製造業に良い影響を与えた意見が多くみられた。一方、製造業では、米中貿易摩擦が悪い影響を与えている意見が多くみられた。

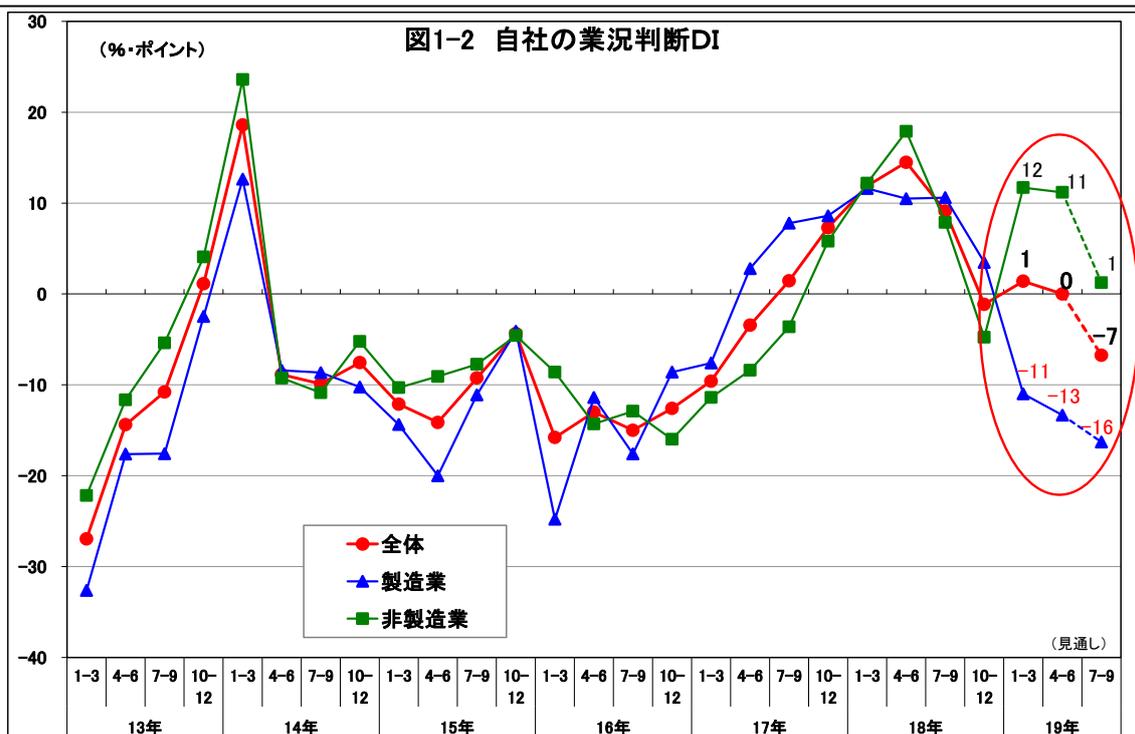


表1 自社の業況判断DI(業種別)

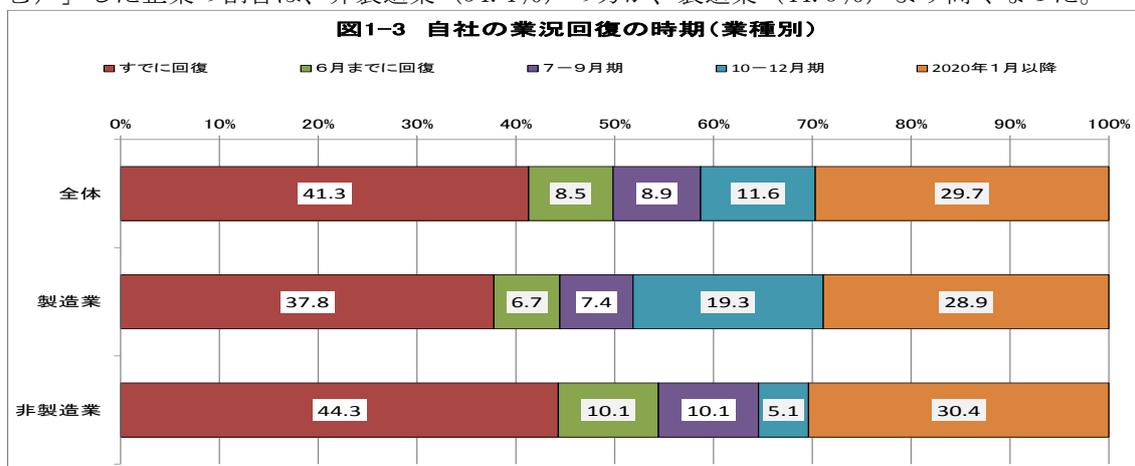
業種(※1)	今回の回答社数	19年 1-3月期 前回	19年 4-6月期 今回(※2)	19年 7-9月期 見通し
<b>全体</b>	<b>296</b>	<b>1</b>	<b>0 ( -3 )</b>	<b>-7</b>
<b>製造業</b>	<b>135</b>	<b>-11</b>	<b>-13 ( -14 )</b>	<b>-16</b>
繊維	19	-46	-37 ( -14 )	-37
木材・木製品	8	-63	-25 ( -50 )	-13
紙・パルプ	×	×	×	×
化学	8	-17	25 ( 17 )	25
石油・石炭	×	×	×	×
窯業・土石	4	0	-25 ( 0 )	0
鉄鋼	×	×	×	×
非鉄金属	×	×	×	×
食料品	13	-29	-23 ( -57 )	-15
金属製品	19	-5	0 ( -5 )	-11
一般機械	12	50	0 ( 0 )	-8
電気機械	11	-18	-9 ( 0 )	-9
輸送用機械	×	×	×	×
精密機械	5	-25	-60 ( -50 )	-80
その他の製造業	25	-4	-12 ( -16 )	-24
<b>非製造業</b>	<b>161</b>	<b>12</b>	<b>11 ( 7 )</b>	<b>1</b>
建設	51	30	25 ( 7 )	22
不動産	15	-8	27 ( 17 )	20
卸売	30	17	7 ( 22 )	-17
小売	22	0	-5 ( 6 )	-9
運輸・通信	8	8	0 ( 8 )	-13
電気・ガス	×	×	×	×
サービス	26	0	0 ( 3 )	-15
リース	×	×	×	×
その他の非製造業	6	-25	0 ( -25 )	0

(※1) 回答数が3社以下の業種は非表示(×)

(※2) ( )内の数値は前回調査時点での4-6月期の見通し

(2) 自社の業況回復の時期…「すでに回復」(6月までに回復を含む)は5割弱(図1-3)

自社の業況回復の時期をみると、「すでに回復(好調維持を含む)」した企業の割合は41.3%となり、「6月まで」(8.5%)を合わせると49.8%となり、前回(48.3%)より1.5ポイント上昇した。一方、半年以上先の「20年1月以降(不明を含む)」は3割弱(29.7%)で、前回(34.6%)より4.9ポイント減少した。業種別では、「すでに回復(6月までに回復を含む)」した企業の割合は、非製造業(54.4%)の方が、製造業(44.5%)より高くなった。



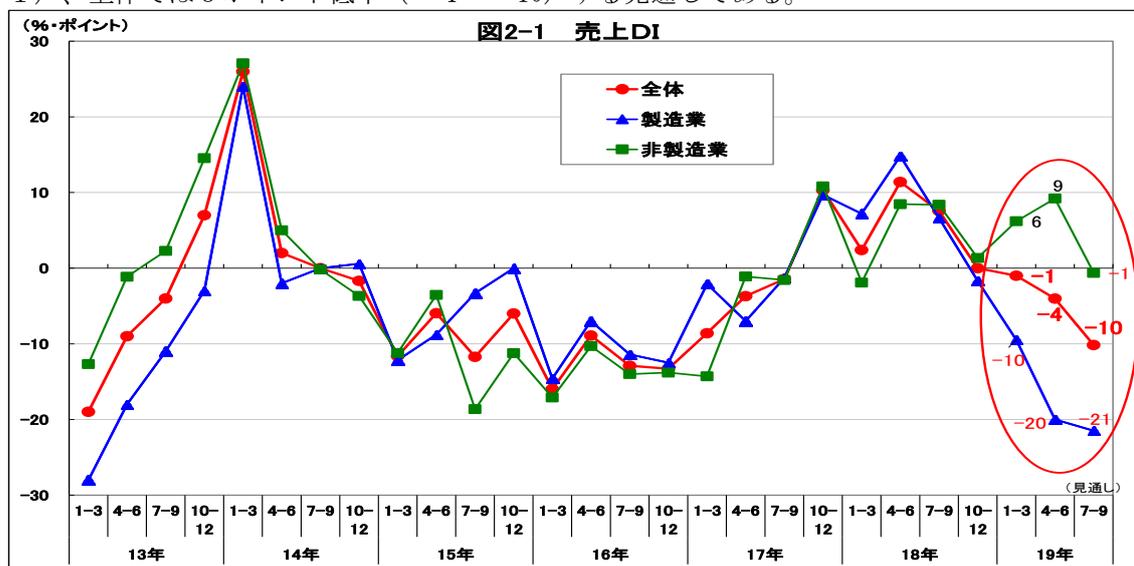
2. その他の判断項目

(1) 売上DI…2四半期連続でマイナス水準(図2-1)

現在の売上DI(「増加」と回答した企業の割合から「減少」と回答した企業の割合を引いた値)は-4で、前回の-1から3ポイント低下し、全体では2四半期連続でマイナス水準(「減少」超過)になった。

業種別では、製造業は-10から-20に10ポイント低下した。化学(+14→+33)はプラス幅が拡大、一般機械(0→0)はもちあいを維持するも、木材・木製品(0→-38)、窯業・土石(0→-25)はもちあいからマイナス水準に低下、金属製品(+16→-16)はプラス水準からマイナス水準に低下した。繊維(-32→-21)、電気機械(-45→-27)はマイナス幅が縮小も、精密機械(-25→-60)、その他の製造業(-8→-20)はマイナス幅が拡大した。非製造業は+6から+9に3ポイント上昇した。不動産(+8→-13)、運輸・通信(+31→-13)はプラス水準からマイナス水準に低下も、小売(-6→+14)はマイナス水準からプラス水準に回復、その他の非製造業(0→33)はもちあいからプラス水準に回復、建設(+9→+8)、卸売(+4→+27)、サービス(+7→+4)はプラス水準を維持した。

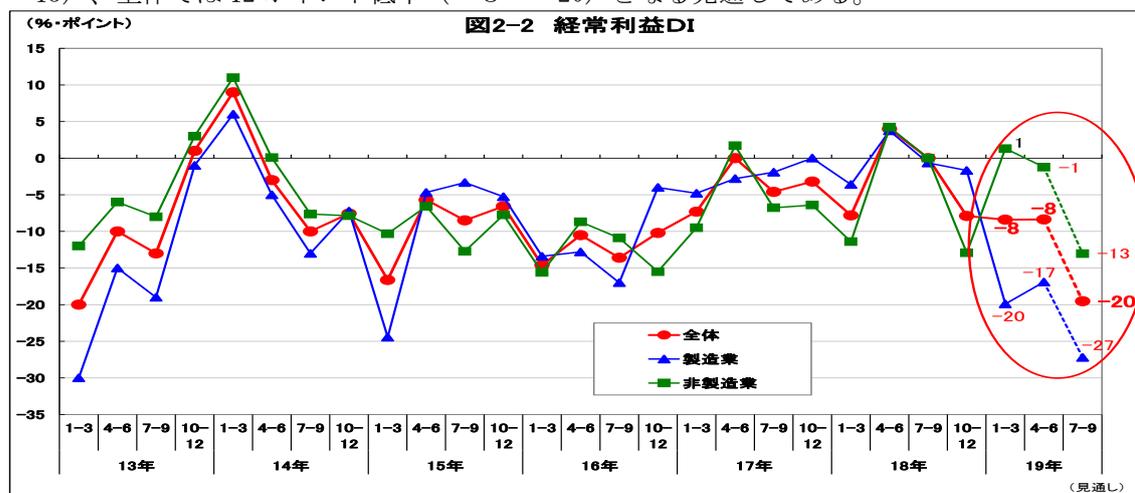
3カ月後は、製造業は1ポイント低下(-20→-21)、非製造業は10ポイント低下(+9→-1)、全体では6ポイント低下(-4→-10)する見通しである。



**(2) 経常利益DI…3四半期連続でマイナス水準(図2-2)**

現在の経常利益DI(「増加」と回答した企業の割合から「減少」と回答した企業の割合を引いた値)は-8で、前回(-8)と同水準となり、3四半期連続のマイナス水準となった。業種別にみると、製造業(-20→-17)は3ポイント上昇も4四半期連続でマイナス水準となった。化学(-14→+44)はマイナス水準からプラス水準に上昇、一般機械(0→+8)はもちあいからプラス水準に上昇、食料品(-36→-15)、電気機械(-46→-9)はマイナス幅が大幅に縮小も、金属製品(0→-16)はもちあいからマイナス水準に低下、繊維(-32→-32)、木材・木製品(-50→-50)、窯業・土石(-50→-50)、精密機械(-25→-60)はマイナス水準のままとなった。非製造業は2ポイントの低下(+1→-1)で、プラス水準からマイナス水準となった。建設(+7→0)、卸売(+4→0)はプラス水準からもちあいに低下、不動産(+8→-20)、運輸・通信(+8→-13)はプラス水準からマイナス水準に低下も、小売(-12→0)、その他の非製造業(-25→0)はマイナス水準からもちあいに、サービス(-3→+7)はマイナス水準からプラス水準に回復した。

3カ月後は、製造業は10ポイント低下(-17→-27)、非製造業は12ポイント低下(-1→-13)、全体では12ポイント低下(-8→-20)となる見通しである。

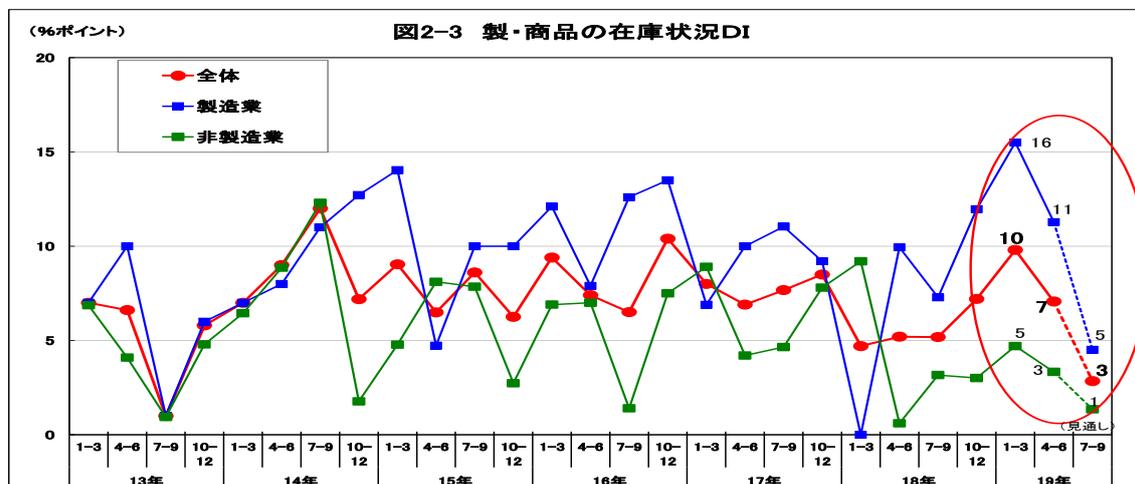


**(3) 製・商品の在庫状況DI…3ポイント低下(図2-3)**

現在の製・商品の在庫状況DI(「過大」と回答した企業の割合から「不足」と回答した企業の割合を引いた値)は+7で、前回(+10)から3ポイント低下した。

業種別にみると、製造業は5ポイント低下(+16→+11)した。木材・木製品(0→+13)、電気機械(0→+9)などで過大感が強まり、窯業・土石(+17→0)、食料品(+22→0)などで弱まった。非製造業は2ポイント低下(+5→+3)した。小売(-6→+9)、その他の非製造業(+14→+20)などで過大感が強まり、卸売(+29→+20)は過大感が弱まり、サービス(+7→-8)は不足に低下した。不動産(-8→-14)は不足感が強まった。

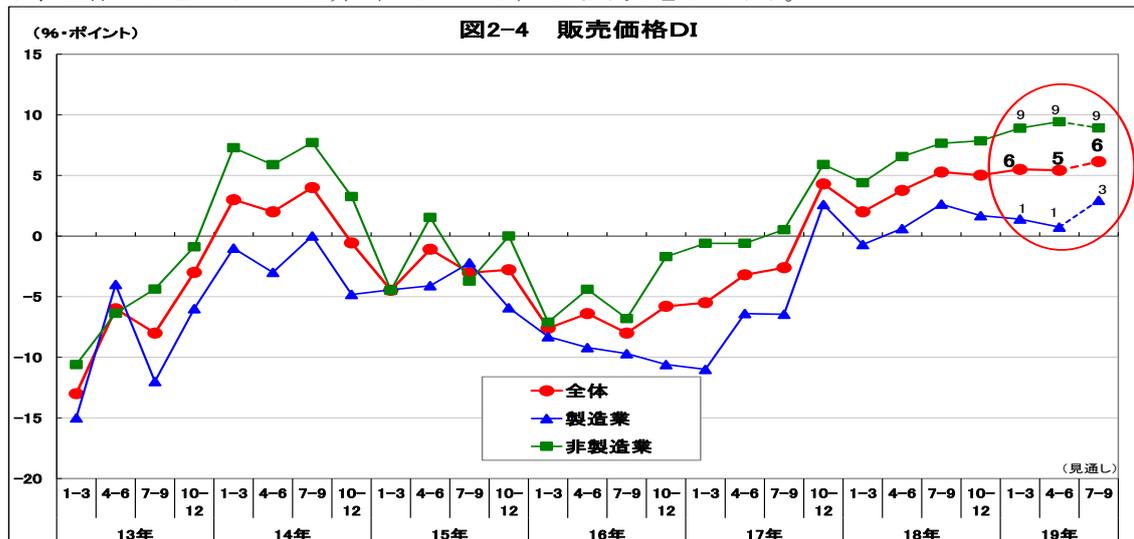
3カ月後は、製造業は6ポイント低下(+11→+5)、非製造業は2ポイント低下(+3→+1)し、全体では4ポイント低下(+7→+3)する見通しである。



**(4) 販売価格DI…1ポイント低下も、7四半期連続でプラス水準(図2-4)**

現在の販売価格DI(「上昇」と回答した企業の割合から「下落」と回答した企業の割合を引いた値)は+5で、前回(+6)より1ポイント低下するも、7四半期連続でプラス水準を維持した。業種別にみると、製造業は前回と同水準(+1→+1)となった。化学(-14→+11)、食料品(+7→+23)、一般機械(-10→+8)、電気機械(-18→+9)などが上昇し、窯業・土石(+17→0)、精密機械(0→-40)、その他の製造業(0→-16)などが低下した。非製造業も前回と同水準(+9→+9)となった。運輸・通信(+30→0)、サービス(+13→+7)などは低下し、不動産(0→+23)、小売(0→+18)などが上昇した。

3カ月後は、製造業が2ポイント上昇(+1→+3)、非製造業は同水準(+9→+9)となり、全体では1ポイント上昇(+5→+6)となる見通しである。

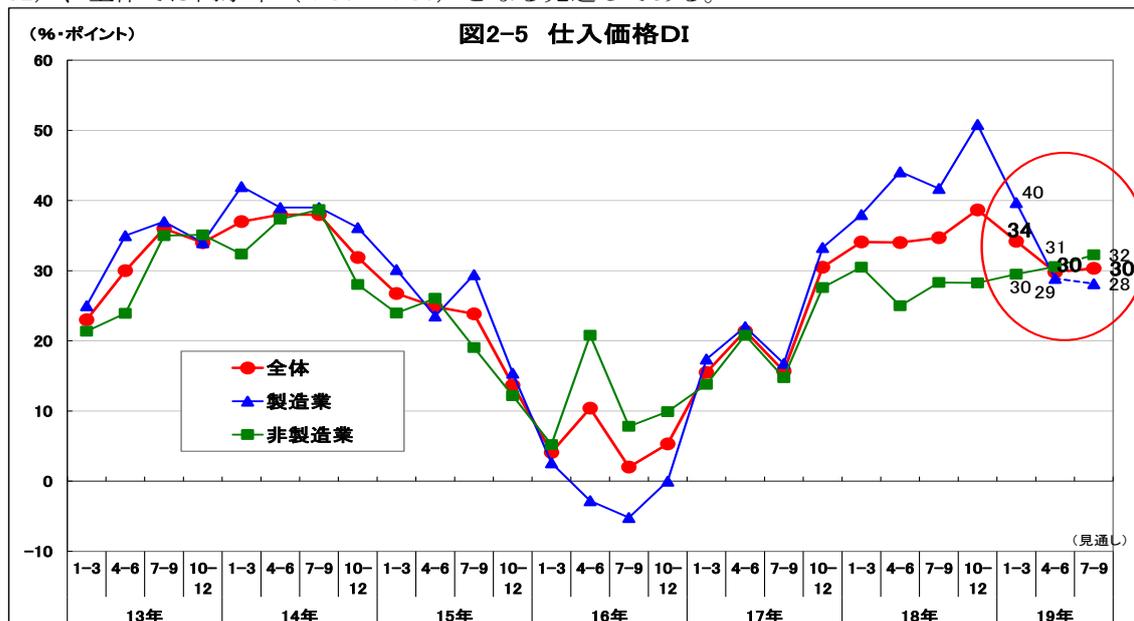


**(5) 仕入価格DI…4ポイント低下もプラス水準(図2-5)**

現在の仕入価格DI(「上昇」と回答した企業の割合から「下落」と回答した企業の割合を引いた値)は+30で、前回(+34)から4ポイント低下も、プラス水準が続く。

業種別にみると、製造業は11ポイント低下(+40→+29)した。窯業・土石(+67→0)、繊維(+55→+37)、その他の製造業(+32→+17)などが低下も、一般機械(+20→+42)などは上昇した。非製造業は1ポイント上昇(+30→+31)した。卸売(+25→+37)、その他の非製造業(14→+20)などが上昇、不動産(+27→+25)、サービス(+17→+15)は低下した。

3カ月後は、製造業は1ポイント低下(+29→+28)、非製造業は1ポイント上昇(+31→+32)、全体では同水準(+30→+30)となる見通しである。

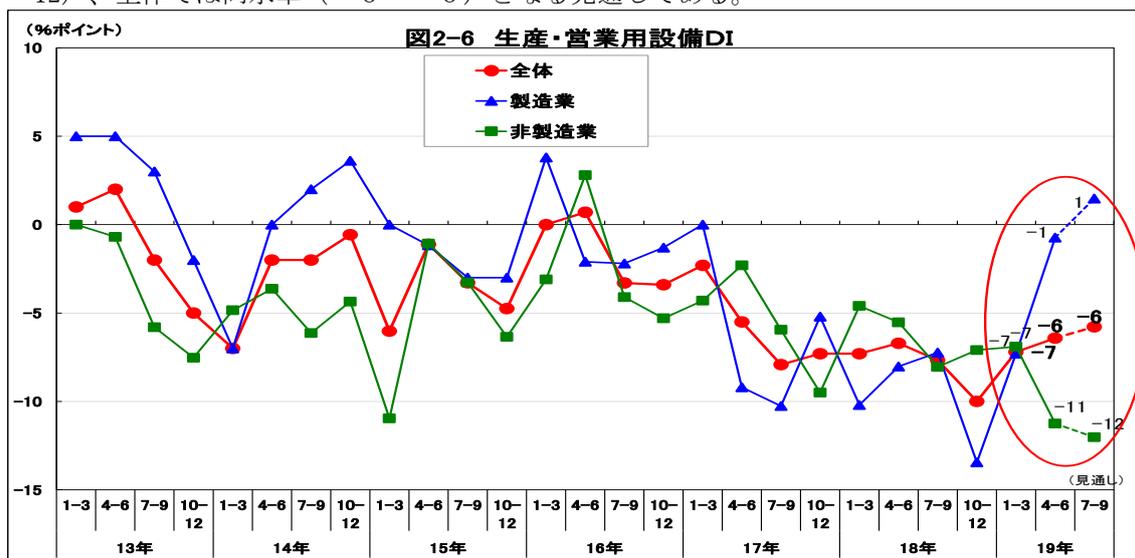


**(6) 生産・営業用設備DI…12 四半期連続でマイナス水準(図2-6)**

現在の生産・営業用設備DI(「過剰」と回答した企業の割合から「不足」と回答した企業の割合を引いた値)は、前回(-7)から1ポイント上昇も-6で、12 四半期連続(3年) マイナス水準になった。

業種別にみると、製造業は6ポイント上昇(-7→-1)した。食料品(-22→-8)、その他の製造業(-16→-4)などは不足感が縮小するも、木材・木製品(0→-13)、一般機械(0→-8)などは不足感が拡大した。非製造業は4ポイント低下(-7→-11)した。卸売(-13→-7)、サービス(-20→-14)などは不足感が縮小し、建設(0→-12)、その他の非製造業(+13→-17)などは不足感が拡大した。

3カ月後は、製造業は2ポイント上昇(-1→+1)、非製造業は1ポイント低下(-11→-12)、全体では同水準(-6→-6)となる見通しである。

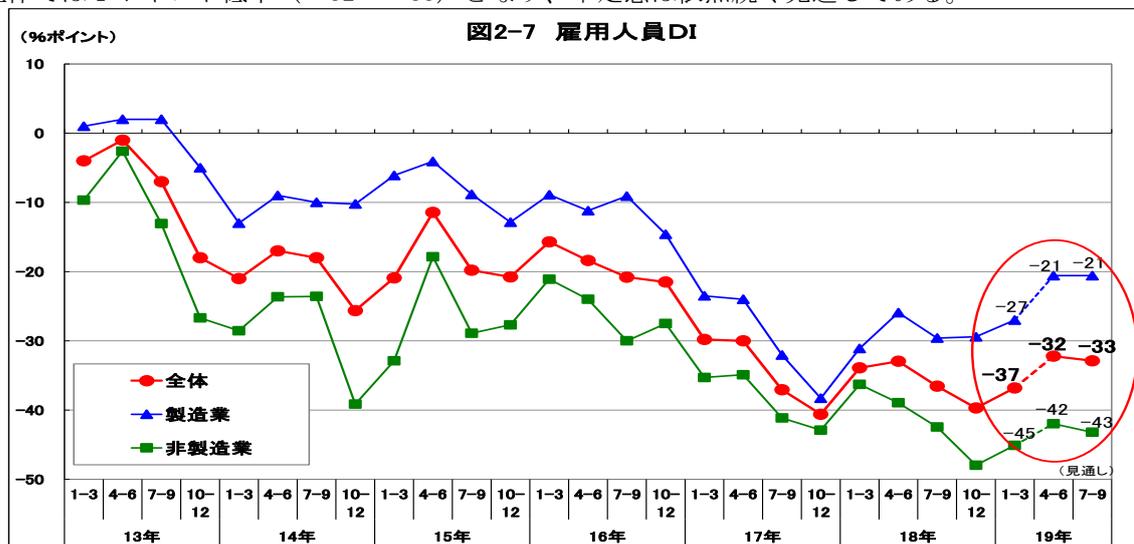


**(7) 雇用人員DI…不足感やや弱まるも、28 四半期連続のマイナス水準(図2-7)**

現在の雇用人員DI(「過剰」と回答した企業の割合から「不足」と回答した企業の割合を引いた値)は-32と前回の-37から5ポイントマイナス幅が縮小するも、12年7-9月期から28 四半期連続(7年)でマイナス水準(人手不足)の状況が続いている。

業種別にみると、製造業は6ポイント上昇(-27→-21)した。化学(0→-33)、繊維(-5→-11)などは不足感が強まり、窯業・土石(-33→0)、金属製品(-42→0)、電気機械(-36→-18)などは不足感が弱まった。非製造業は3ポイント上昇(-45→-42)した。卸売(-50→-17)、その他の非製造業(-13→0)などは不足感が弱まり、建設(-50→-65)、不動産(-18→-20)は不足感が強まった。

3カ月後は、製造業は同水準(-21→-21)、非製造業は1ポイント低下(-42→-43)、全体では1ポイント低下(-32→-33)となり、不足感は依然続く見通しである。



### 3. 設備投資の実施状況

#### (1)設備投資の実施割合…3四半期ぶりに50%割れ(図3-1、表2)

今期(4-6月期)に設備投資を実施した(する)企業の割合は47%で、前回(19年1-3月期)50%から3ポイント低下し3四半期ぶりに50%割れとなった。

業種別にみると、製造業は49%で、前回(54%)より5ポイント低下した。化学(57%→67%)、精密機械(25%→40%)などが上昇し、窯業・土石(100%→50%)、木材・木製品(63%→38%)、一般機械(80%→58%)などが低下した。非製造業は46%で前回(47%)より1ポイント低下した。運輸・通信(54%→88%)、卸売(38%→41%)などが上昇し、小売(44%→33%)、サービス(69%→61%)などは低下した。

3カ月後の設備投資実施予定の割合は、製造業が51%、非製造業が37%で全体では43%と、やや低下する見通しである

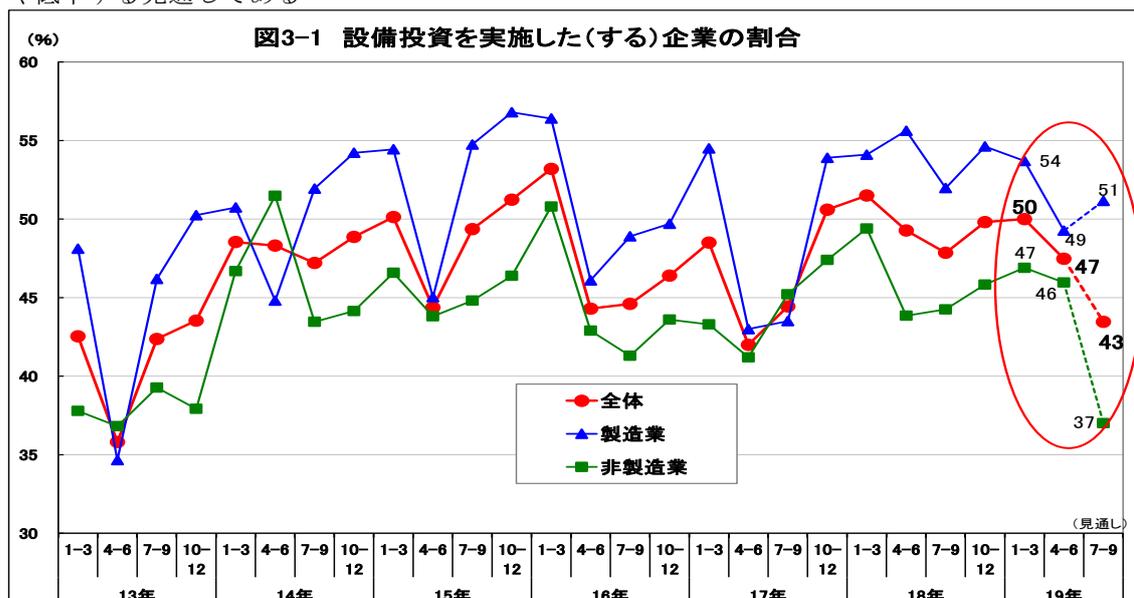


表2 設備投資を実施した(する)の企業の割合(業種別詳細) (%)

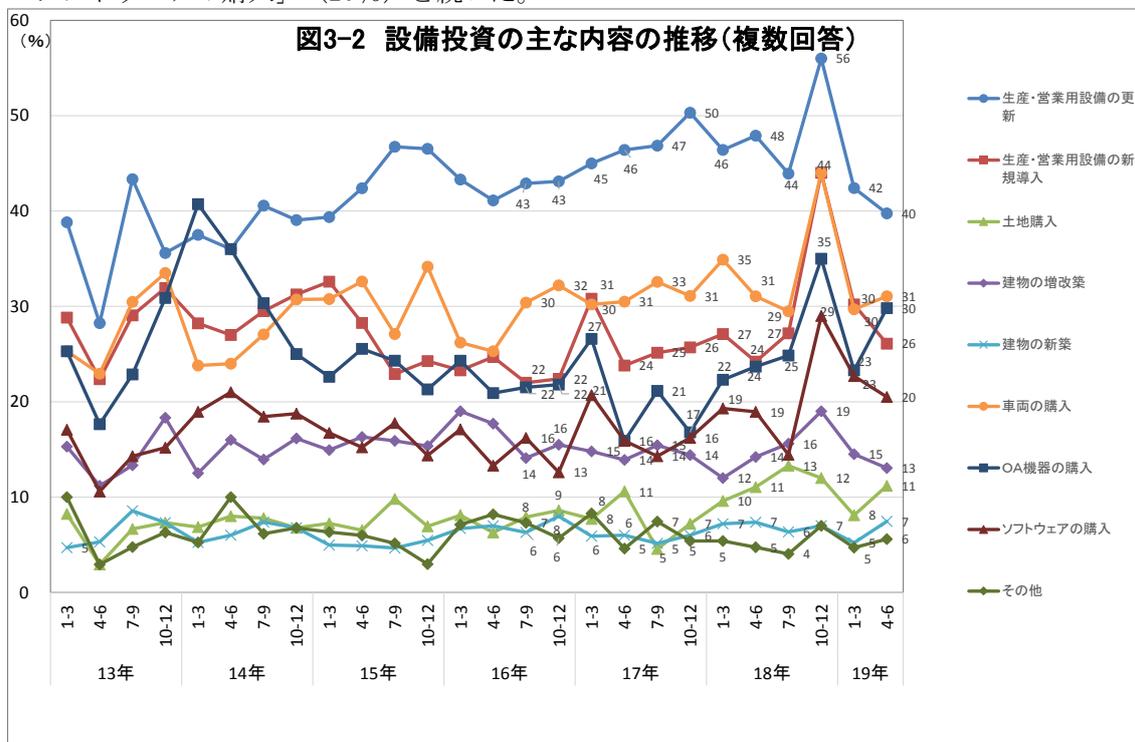
業種(※)	19年 1-3月期 前回	19年 4-6月期 今回	19年 7-9月期 見通し
<b>全体</b>	<b>50</b>	<b>47</b>	<b>43</b>
<b>製造業</b>	<b>54</b>	<b>49</b>	<b>51</b>
繊維	23	21	41
木材・木製品	63	38	13
紙・パルプ	×	×	×
化学	57	67	78
石油・石炭	×	×	×
窯業・土石	100	50	75
鉄鋼	×	×	×
非鉄金属	×	×	×
食料品	57	46	64
金属製品	47	53	47
一般機械	80	58	67
電気機械	55	55	36
輸送用機械	100	×	×
精密機械	25	40	50
その他の製造業	48	48	52
<b>非製造業</b>	<b>47</b>	<b>46</b>	<b>37</b>
建設	43	45	24
不動産	42	40	14
卸売	38	41	43
小売	44	33	37
運輸・通信	54	88	75
電気・ガス	×	×	×
サービス	69	61	54
リース	×	×	×
その他の非製造業	38	33	33

(※)回答数が3社以下の業種は非表示

(2)設備投資の主な内容…「生産・営業用設備の更新」が21四半期連続(5年超)のトップ

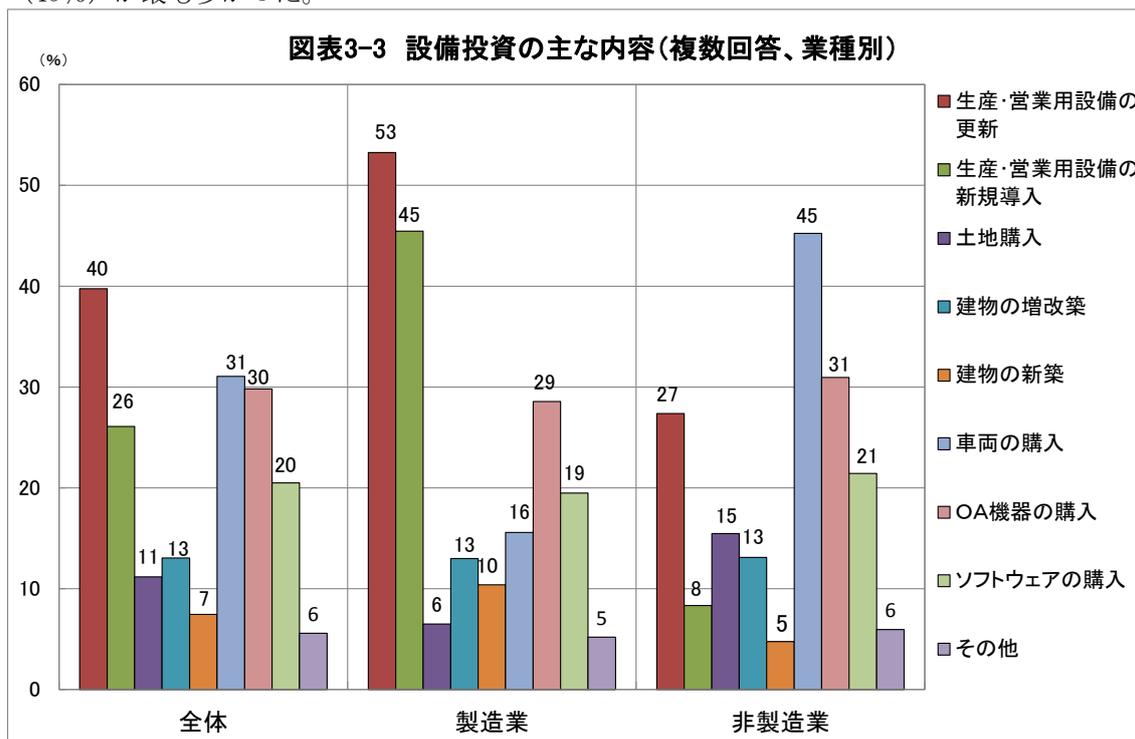
1. 全体の動向 (図3-2)

設備投資を実施した(する)企業のうち、設備投資の主な内容をみると(複数回答)、「生産・営業用設備の更新」(40%)が21四半期連続(5年超)で最も多かった。次いで「車両の購入」(31%)、「OA機器の購入」(30%)、「生産・営業用設備の新規導入」(26%)、「ソフトウェアの購入」(20%)と続いた。



2. 業種別の動向 (図3-3)

業種別にみると、製造業は「生産・営業用設備の更新」(53%)、非製造業は「車両の購入」(45%)が最も多かった。



【参考資料】

1. 現在の業況判断の根拠となる具体的な理由や背景（一部抜粋）

【製造業】

「良い」（かなり良い+やや良い）

業種	事象
繊維	・主力製品外の売上が5%程度増加した。
化学	・新規先からの受注5%増加。
金属製品	・4月単月売上が前年比15%増加した。 ・売上が20%増加した。
電気機械	・自動車関連の業種が良い。
その他の製造業	・昨年の台風の影響で、産業廃棄物関連の売上が増加した。

「悪い」（かなり悪い+やや悪い）

業種	事象
繊維	・受注先の生産減の影響で売上減少。
食料品	・主力商品（OEM）販売先の売上げ不調により50%減少。 ・不採算部門の閉鎖、事業縮小（人員削減）。 ・販売価格下落のため。 ・注文数の減少で売上が約5%減少した。
金属製品	・2~4月で約10%売上減少。 ・中国の景気の後退が当社の売上にも影響している。 ・ソーラーパネル製品検査の仕事が無くなり、売上が前年対比30%減少。 ・2019年度第1四半期の売上が15%ダウン（対前年同期）。
一般機械	・原材料価格上昇を売価に反映できない。 ・受注減少。
電気機械	・輸出売上が減少。 ・米中貿易摩擦等、景気減退による電子部品部門の売上が減少。 ・主要先の売上が5%減少。
精密機械	・受注減少（10%）。 ・中国経済の減速等の外部要因により、生産高が10%程度減少。
その他の製造業	・米中貿易摩擦の問題でエンドユーザーが様子見で受注量が不透明。

【非製造業】

「良い」（かなり良い+やや良い）

業種	事象
建設	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工事受注の増加。</li> <li>・新規受注も好調で売上増加。</li> <li>・賃貸の不動産がほぼ空きなしの状態。</li> <li>・従業員減少も、受注は増加。</li> </ul>
不動産	<ul style="list-style-type: none"> <li>・草津市、敦賀市の賃貸物件の需要が高い。</li> </ul>
卸売	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既存出荷製品の維持および回復、また新規製品の開拓に成功。</li> <li>・GW10連休のおかげで売上が15%増加した。</li> </ul>
小売	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消費税増税前の駆け込み需要が見込まれるため。</li> <li>・好天の影響で観光需要増加。</li> <li>・昨年の台風によりパイプハウスの受注が増加。</li> </ul>
運輸・通信	<ul style="list-style-type: none"> <li>・GW10連休の影響で船舶の売上が25%増加。</li> </ul>
サービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・働き方改革により効率的な仕事、生産性向上につながり、状況は良い流れで推移している。</li> <li>・公共事業関連予算増加の影響で売上高が4%増加した。</li> <li>・GW10連休で単価がアップした。</li> <li>・戸建て新設住宅着工戸数の増加。消費税引き上げ前の（若干ではあるが）確認申請持ち込み増加。</li> </ul>
その他の非製造業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・季節在庫品（夏向き）の入荷が始まり、在庫量が増加傾向にある。</li> </ul>

「悪い」（かなり悪い+やや悪い）

業種	事象
建設	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人手不足で仕事の依頼を断っている。</li> <li>・取引先の設備投資が縮小、凍結している影響で売上が減少している。</li> <li>・公共工事の発注が減少している。</li> </ul>
卸売	<ul style="list-style-type: none"> <li>・酒類全般において消費量は減少。売上、利益とも大きく寄与しない。RTD（＝栓を開けてそのまま飲める酒。缶チューハイ等）だけが順調。</li> </ul>
小売	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原油価格の上昇で仕入価格が上昇し、粗利低下。ガスも仕入価格の上昇により採算悪化。ガス大口販売先の売値低下により採算悪化。</li> </ul>
運輸・通信	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドライバー不足が続いており、運送売上が1割減少した。</li> </ul>
サービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少子化の影響で販売写真の売上が5%減少した。</li> </ul>

2. DI回答一覧(業種別)

項目	業況判断DI				売上				仕入価格				販売価格			
	前回		今回		前回		今回		前回		今回		前回		今回	
	19年	19年	19年	19年	19年	19年	19年	19年	19年	19年	19年	19年	19年	19年	19年	
調査時期	1-3	4-6	4-6	7-9	1-3	4-6	4-6	7-9	1-3	4-6	4-6	7-9	1-3	4-6	4-6	7-9
現在/3カ月後の見通し	現在	見通し	現在	見通し	現在	見通し	現在	見通し	現在	見通し	現在	見通し	現在	見通し	現在	見通し
全体	1	-3	0	-7	-1	-10	-4	-10	34	30	30	30	6	6	5	6
製造業	-11	-14	-13	-16	-10	-18	-20	-21	40	25	29	28	1	4	1	3
繊維	-46	-14	-37	-37	-32	-14	-21	-42	55	27	37	32	5	0	5	0
木材・木製品	-63	-50	-25	-13	0	-13	-38	-13	50	38	38	38	13	0	13	25
紙・パルプ	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
化学	-17	17	25	25	14	14	33	0	57	14	44	56	-14	0	11	11
石油・石炭	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
窯業・土石	0	0	-25	0	0	17	-25	25	67	33	0	0	17	0	0	0
鉄鋼	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
非鉄金属	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
食料品	-29	-57	-23	-15	-50	-50	-50	-8	36	22	23	8	7	21	23	15
金属製品	-5	-5	0	-11	16	-16	-16	-21	37	16	37	42	0	0	-5	0
一般機械	50	0	0	-8	0	-20	0	0	20	10	42	42	-10	10	8	25
電気機械	-18	0	-9	-9	-45	-45	-27	-64	18	18	18	18	-18	0	9	9
輸送用機械	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
精密機械	-25	-50	-60	-80	-25	-50	-60	-80	0	0	0	0	0	-25	-40	-40
その他の製造業	-4	-16	-12	-24	-8	-16	-20	-16	32	36	17	13	0	4	-16	-4
非製造業	12	7	11	1	6	-3	9	-1	30	34	31	32	9	7	9	9
建設	30	7	25	22	9	0	8	6	35	44	35	41	11	13	6	2
不動産	-8	17	27	20	8	-25	-13	-7	27	46	25	33	0	17	23	23
卸売	17	22	7	-17	4	18	27	-7	25	13	37	31	8	4	10	14
小売	0	6	-5	-9	-6	-6	14	19	29	29	32	32	0	6	18	18
運輸・通信	8	8	0	-13	31	0	-13	-25	55	64	57	57	30	10	0	0
電気・ガス	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
サービス	0	3	0	-15	7	0	4	-4	17	18	15	12	13	0	7	7
リース	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
その他の非製造業	-25	-25	0	0	0	-38	33	-17	14	29	20	20	0	0	0	0

項目	経常利益				製・商品の在庫				生産・営業用設備				雇用人員			
	前回		今回		前回		今回		前回		今回		前回		今回	
	19年	19年	19年	19年	19年	19年	19年	19年	19年	19年	19年	19年	19年	19年	19年	
調査時期	1-3	4-6	4-6	7-9	1-3	4-6	4-6	7-9	1-3	4-6	4-6	7-9	1-3	4-6	4-6	7-9
現在/3カ月後の見通し	現在	見通し	現在	見通し	現在	見通し	現在	見通し	現在	見通し	現在	見通し	現在	見通し	現在	見通し
全体	-8	-13	-8	-20	10	4	7	3	-7	-6	-6	-6	-37	-36	-32	-33
製造業	-20	-21	-17	-27	16	9	11	5	-7	-4	-1	1	-27	-26	-21	-21
繊維	-32	-23	-32	-53	32	18	26	16	9	0	16	26	-5	-18	-11	-5
木材・木製品	-50	-63	-50	-25	0	25	13	13	0	13	-13	0	-38	-38	-38	-25
紙・パルプ	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
化学	-14	14	44	11	0	0	0	-11	-14	-14	-11	-11	0	0	-33	-33
石油・石炭	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
窯業・土石	-50	-33	-50	-50	17	17	0	0	17	17	25	25	-33	-17	0	0
鉄鋼	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
非鉄金属	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
食料品	-36	-29	-15	8	22	7	0	-8	-22	-14	-8	-8	-29	-36	-31	-38
金属製品	0	-26	-16	-26	11	5	6	0	-11	0	0	0	-42	-37	0	-5
一般機械	0	-10	8	-8	10	0	0	0	0	10	-8	-25	-20	10	-25	-42
電気機械	-46	-36	-9	-55	0	0	9	9	-18	-9	-9	0	-36	-46	-18	-9
輸送用機械	50	-25	-67	-100	25	25	0	0	-25	-50	0	-33	-50	-50	-67	-67
精密機械	-25	-50	-60	-80	33	33	20	20	25	25	20	20	-25	0	-20	-20
その他の製造業	-13	-4	-24	-28	24	12	21	8	-16	-12	-4	4	-28	-32	-24	-20
非製造業	1	-6	-1	-13	5	-1	3	1	-7	-7	-11	-12	-45	-45	-42	-43
建設	7	-14	0	-18	-2	-7	0	-2	0	0	-12	-16	-50	-52	-65	-67
不動産	8	-25	-20	-20	-8	-25	-14	0	-9	0	-15	-8	-18	-27	-20	-13
卸売	4	9	0	-7	29	23	20	7	-13	-17	-7	0	-50	-35	-17	-24
小売	-12	6	0	-9	-6	0	9	9	-6	-12	-9	-14	-53	-59	-50	-50
運輸・通信	8	0	-13	-25	0	0	0	0	-8	-8	-13	-13	-54	-54	-50	-50
電気・ガス	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
サービス	-3	4	7	-4	7	-4	-8	-4	-20	-17	-14	-19	-42	-40	-41	-39
リース	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
その他の非製造業	-25	-25	0	-17	14	14	20	0	13	13	-17	-17	-13	-25	0	0

※回答数が3社以下の業種は非表示(Xと表示)